

学習者モデルと講座の構成 内容説明

情報通信技術(ICT, Information and Communication Technology)時代においては、つぎのような学習者モデルが期待されています。

誰でもインターネットや図書ならびにさまざまな資料を通じて、最新の知識を入手できる。

教師や指導者が情報や正しい知識を独占している状況は過去のものである。

すべての人が単なる知識の消費者としてではなく知識の生産者として成長することができる。

= 知識消費者モデルから知識生産者モデルへ

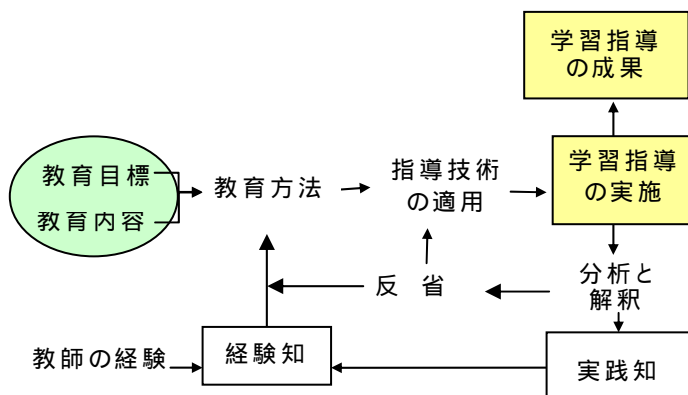
講座にはさまざまな経験をもつ人材が参加しており、お互いに学ぶことによって創造的な活動が期待できる。

他人との競争による勉強から、多様性のある学友や同僚と協力しながら学ぶ構えに変革することができる。

学習する内容を個人の教養重視から社会貢献と生活維持をめざす社会的に有用な能力の習得へと転換することができる。

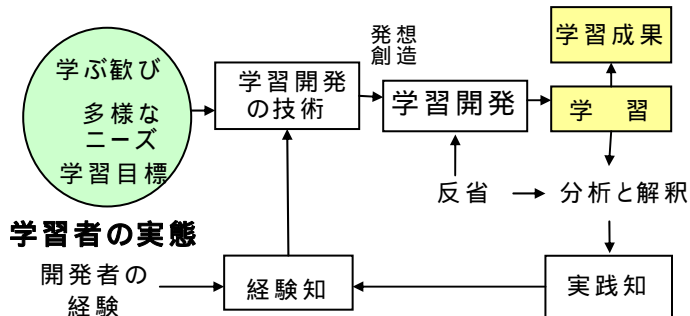
自律的学習を目指す講座

これまでの教育では教育理念や教育目標から発想することが普通でした。教育方法学の授業でも最初に教育内容があり、それを講義かせいぜい演習形式で授業を実施して、学生はそれを理解することが期待されているというのが普通です。授業が効果的になるように視聴覚機器を利用するなどいろいろな工夫がなされますが、基本的には教育内容は教授者によって決められます。これは図のようにまとめられるでしょう。



それに対して、もう1つのアプローチがあります。さまざまな能力と知識をもつ個性ある多様な参加者がさまざまな経験と知識を持って参加しているような授業です。これから体験する講座はこのような状況を想定しています。とくにチームでお互いに問題意識を共有しながら、その問題解決に協働できるような授業として設計してあります。

この講座では全体的なテーマに取り組むことを意識しながら毎週のテーマに従って学習活動し、最後に作品やレポートが生み出され、一人ひとりの能力が育成されるように設計されています。チーム学習では、メンバーの協働と貢献が最終成果を大きく左右します。学習は独りだけでは持続できないし広がりも生まれないので、お互いが刺激しあったり助け合ったりしながら学習を進めよう。講座は毎週の学習テーマにしたがって展開しますが、少しゆとりをもたせて学習に必要な資料が用意されています。その他にも各チームで分担して必要な資料を収集するとともに、インターネットを通じてさまざまな情報を入手することを前提としています。



学習ではまず「今週の学習テーマ」を読んで、つぎに関係する学習資料を参考にいろいろなことを調べたり記入し、必要があればインターネットで探索したり、図書館で調べたりします。学習の順序はつぎの通りです。

- 「今週の学習テーマ」を読んで全体を理解して学習活動を始める
- 学習資料を参考にする
- その他の資料を集めたりインターネットで探したりする
- 演習課題があるときはそれを行う

